

目黒区男女平等フォーラム 2025

「ジェンダーと防災 最新の避難所づくりを考えよう！」



日時・会場	令和7年11月1日(土) 13:00～16:00 目黒区総合庁舎本館 2階大会議室
内容	第1部 13:00～14:00 防災用品の展示、学生による説明有り 第2部 14:00～16:00 講座とワークショップ
講師	東京大学大学院情報学環 生産技術研究所 准教授 沼田 宗純(ぬまだ むねよし)氏

男女平等フォーラムは「目黒区男女が平等に共同参画し性の多様性を尊重する社会づくり条例」に基づき、区と区民で構成する「目黒区男女平等・共同参画センター運営委員会」の企画・運営により毎年開催しています。今回のフォーラムでは区民から関心の高い「防災」に焦点を当て、「ジェンダーと防災」という観点で企画しました。講師は防災研究の第一人者である東京大学大学院情報学環生産技術研究所准教授の沼田宗純先生にお願いし、「ジェンダー視点による避難所運営を考える」をテーマにご講演いただきました。

今回のフォーラムでは2つのプログラムを実施しました。第一部は防災用品の展示、第二部が講演とワークショップという構成です。

第一部では、東京大学大学院の学生にご協力いただき、避難所で使用する段ボールベッドや携帯用トイレなど防災用品の使用方法について展示説明を行いました。参加者も熱

心に耳を傾けており、防災意識の高まりを実感しました。

第二部の講演とワークショップには多くの方が参加されました。沼田先生からは貴重な提言を数多くいただきましたが、特に印象に残った内容をご紹介します。

- ・ ジェンダーの本質は、性別による固定役割や格差を生まないこと。女性に配慮で終わらせず、すべての避難者の困りごとを想像する枠組みにすることが重要
- ・ 避難所運営には避難者理解の視点が不可欠。多様な避難者の背景・ニーズを理解することに加え、「Sympathy(同情)」から「Empathy(共感)」へ、想像力を持った対応が求められる
- ・ 他者への共感を持つには、運営組織の中にジェンダー平等の意識を根付かせることが必要。平時からの多様な住民参加を出発点とした「共感できる組織づくり」が、共感的な避難所運営を生む
- ・ 運営ルール・レイアウト・物資・防犯など計画の全段階にジェンダーを埋め込む

- ・ 組織の男女比をおおむね半々にし、フラットに議論できる環境を整えると、「ジェンダー視点」を意識しなくても平等に近づける

講演に引き続き行われたワークショップでは、参加者がグループに分かれて、避難所運営や利用する際の心がけ、避難所に必要な防災用品、女性、子ども、要配慮者への対応で気を付けることなどについて活発な意見交換を行いました。その議論を踏まえて「避難所での心得ー防災チェックリスト」を作成、成果を発表してフォーラムは終了となりました。参加者アンケートでは90%の方が高評価、もっと話を聞きたかったとの声も聞かれるなど、大変実りのあるフォーラムとなりました。

